

令和6年12月定例会一般質問

通告5

質問 搜索民間ボランティア団体に支援を

答弁 必要に応じ協力をお願いします

3番 栗栖陽介 議員

【質問：栗栖 陽介 議員】

3番、栗栖陽介です。私は搜索民間ボランティア団体に支援をということについて質問いたします。

町内で発生した子供の搜索事件があった中で、ある母親の言葉を思い出しました。初めて子供が行方不明になったとき、どうしていいか分からずパニックになりました。警察に搜索願を出すにしても、搜索中にひょっこり帰ってきても恥ずかしいし、でも、民間の団体なら気軽に頼みやすいよね。だから、民間の団体があればどれだけ心強いかと。

釧路にはたんぽぽの会という徘徊老人を支えるボランティア団体があります。その会のように徘徊老人の搜索をしてもらい、変質者が現れたときには見回りをしてもらおうのです。こういう住民の支え合いの取組が住民自治であり共助であります。

現在、民間の団体を立ち上げようと動き出している人たちがおります。令和元年の町民アンケートでは中標津町に住み続けたいと思う人は81.9%いました。町民が安心安全なまちになるためには民間の努力の共助、そして、町で支援する公助があって、その積み重ねの先に中標津町に住み続けたい人がさらに増えるのではないのでしょうか。

ちなみに令和元年の町民アンケートで、町民と行政が協力してまちづくりが進められているかについては、そう感じないは48.6%と半数近い結果となっております。

これらの話を踏まえた上で質問いたします。実際に民間の搜索ボランティア団体が必要であるとの声もあり、それを町で支援することが必要と感じておりますが、町長のお考えはいかがでしょうか。



【答弁：町長】

栗栖議員御質問の搜索民間ボランティア団体に支援をにつきまして御答弁申し上げます。

高齢化の進行や核家族化等の社会環境の変化により、特に認知症高齢者の徘徊事例等が増加することが予測され、速やかな発見と保護を図るとともに日常の中での見守り支え合いを促進し家族の安心感も高めることで、誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことができるまちづくりの促進を図っていくことは大変重要なことであります。

平成6年に全国に先駆け認知症高齢者を介護する家族会、釧路地区障害老人を支える会、たんぽぽの会が中心となって行政や民間企業と連携し、徘徊する認知症の高齢者を早期に発見保護する釧路地域SOSネットワークを立ち上げ、この事例をもとに、現在では北海道が主体となり道内全ての圏域で同様のシステム構築が進み、中標津保健所管内におきましても、高齢者、または障害のある方が徘徊等により行方不明になった場合は、地域の関係機関等が連携し行方不明になった方を早期発見保護する、中標津保健所管内SOSネットワークが構築されているところであります。

家族が行方不明に気づき中標津警察署に公開搜索を依頼すると、搜索対象者の特徴を知らせるSOS手配書がネットワーク構成機関へ一斉に送られ、さらにFM中標津放送により一般住民への呼びかけも行われます。構成機関には中標津保健所管内の自治体、消防署、郵便局、介護福祉関係機関、ハイヤー協会やバス会社などが参画しております。中標津保健所管内の自治体、地域包括支援センターでは警察署の要請を受けて、行方不明となった徘徊高齢者などの搜索活動に協力し、必要に応じて居宅介護支援事業所などへ協力を要請いたします。

行方不明者の搜索におきましては、警察の指揮下において活動することが捜査の一元化からも好ましく、また、犯罪との関連など警察の専属的な任務と判断されますので、その指示に従ったほうがよく、要請に基づく活動範囲にとめるべきと考えております。

そうしたことから搜索民間ボランティア団体への支援につきましては、中標津保健所管内SOSネットワークの構成機関に加わっていただくことで、高齢者、または障害のある方が行方不明となった場合の搜索活動の際に、町と情報提供することで連携を図りたく、また、必要に応じて搜索への協力をお願いしたいと考えておりますので、御理解をよろしくお願い申し上げます。